

相手を「おもいやる」心をもとう^(※1)中第 28 回卒 羽柴 幸子^(※2)

母校の 90 周年を迎えて「もうそんなになったの！」と今更乍ら感無量なるものがあります。

私は昭和 5 年の卒業ですからもう 58 年にもなるわけです。あの頃は正に紅顔の美少年というところでしたが、今や白髪の老顔になりました。「何とかあと 10 年、即ち 100 周年迄は生きたいもの」と頑張っているのですが……。

私達の青春時代は殆んど戦争で、とても今日の様な世相ではありません。

私は初戦から終戦まで海軍に籍をおき、航空隊の一員として大空で戦って来ましたが、その間数度の戦傷を受け、遂に障害者となり、今日尚、不自由な脚を引き纏っているわけでありませぬ。

併し私はさいわい九死に一生を得て今日生き永らえていただけるだけ「しあわせ」であると思いません。

私達の戦友は大半戦死してしまい、今日生き残っているのは極く少数であります。特に飛行兵は年若く、自ら特攻隊員として死んでいった者も沢山居ります。

併し彼等は死の寸前まで祖国を思い、親兄弟を思い、その「しあわせ」を祈って死んで行ったのです。

私は彼等を思うと今でも胸が痛んでなりません。

私は今日まで 30 余年間市の社会福祉の仕事に携って居りますが、何時もこの戦友の分まで生き延びて頑張らねばと思っています。

今や日本は世界の経済大国になり、目覚ましい発展を遂げて居りますが、毎日の新聞、テレビに報ぜられる世相は必ずしも、是ではありません。特に青少年の問題は大きく叫ばれて居ります。私は今日の日本人は大切な心を失っているのではないかと、案じて居ります。よく「物で榮えて心で亡ぶ」といわれて居りますが今こそ、この心の面を考慮しなければならないと思います。

私は社会福祉とは、みんなの「しあわせ」ということだと思えます。みんなが「しあわせ」になるためには常に相手の心を心とし、相手を「おもいやる」ことだと思えます。

どうか若い在校の皆さんこの心を忘れず、母校のため更に頑張ってください。

(相馬市社会福祉協議会会長)

(※1) 創立 90 周年記念誌 『紅の旗』 〈 1988(昭和 63)年 9 月 2 日発行〉

100 周年に向けて「我等 O B も頑張っているぞ！」より。

(※2) 中村出身。